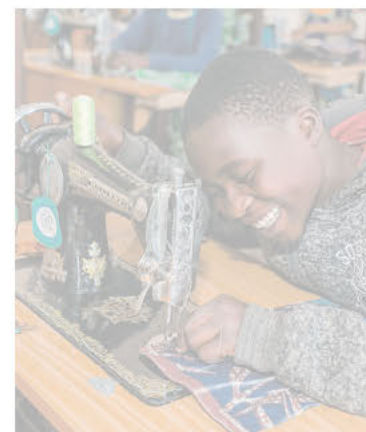


Annual Activity Report

2021-2022

認定NPO法人テラ・ルネッサンス / 2021年度年次報告書





2021年度・活動のお礼とご挨拶

コロナ禍、ウクライナ危機、レジリエントに対応

2021年はコロナ禍による社会経済活動の制限が続く中、より脆弱な状況に陥った方々へのフォローアップ支援を強化してきました。また、2021年2月にはウクライナから大量の難民が発生しましたが、アジア・アフリカの支援事業を縮小することなく、ウクライナ難民・避難民への支援を開始することもできました。格差が拡大し、不安定な社会状況の中、支援者の皆様のおかげでレジリエントに事業実施を推進することができました。創設20周年を迎え、これを機にさらに、多様な人々と共にビジョンに向けての歩みを進めていきたいと思ひます。



理事長
海外事業部長

小川 真吾

創設20周年、世界平和の実現を目指し溢れる勇気

創設20周年を迎えた2021年は、「これまでの感謝」と「これからの決意と展望」を伝えるために、様々な取り組みを行いました。それらのことから、世界7か国の現地人スタッフ、支援者の皆さんにいたるまで、世界平和を目指すチーム（家族）としての絆を確認し、感慨深いものがありました。分断の激しい世界において、世界平和を実現する旅路は困難を極めるでしょう。けれども、理念を共有するチーム（家族）と一緒にであれば、必ず実現できる。20周年を超えたいま、そんな勇気に溢れています。



創設者・理事・啓発事業部長
グローバル人財育成事業室長

鬼丸 昌也

自然環境を守りながら「自立」と「自治」を推進

カンボジアでは、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、対象地域の村まで感染が拡がり、活動も非常に制限されました。村内で収入を得られる家畜飼育への希望が殺到し、追加の家畜を購入して対応しました。ラオスでも、幼児向けの不発弾回避教育を実施し少しずつその成果が見え始め、また、職業訓練を実施した世帯も収入を得られるようになってきています。アジアでは現地にあるものを活用し、自然環境を守りながら「自立」と「自治」をさらに推進していきたいと思ひます。



理事
アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長

江角 泰

10周年を迎えた「大槌刺し子」が体現するもの

2021年度はテラ・ルネッサンスにとっては創設20年、大槌刺し子にとっても10周年の節目の年となりました。特に大槌刺し子においては、10周年を迎え、新しく方針を示すとともに、ウェブサイト、ロゴのリニューアルを行いました。これからも新生大槌刺し子として、「刺し子」や「大槌刺し子」が体現するものを通して、持続可能な社会や人と人との繋がりを社会に示すべく、刺し子さんやスタッフとともに歩んでいきたいと思ひます。



理事・大槌刺し子事業部長
政策提言室長

吉田 真衣

スタッフ一覧 - 世界で活動する仲間たち -

本部事務局(京都)



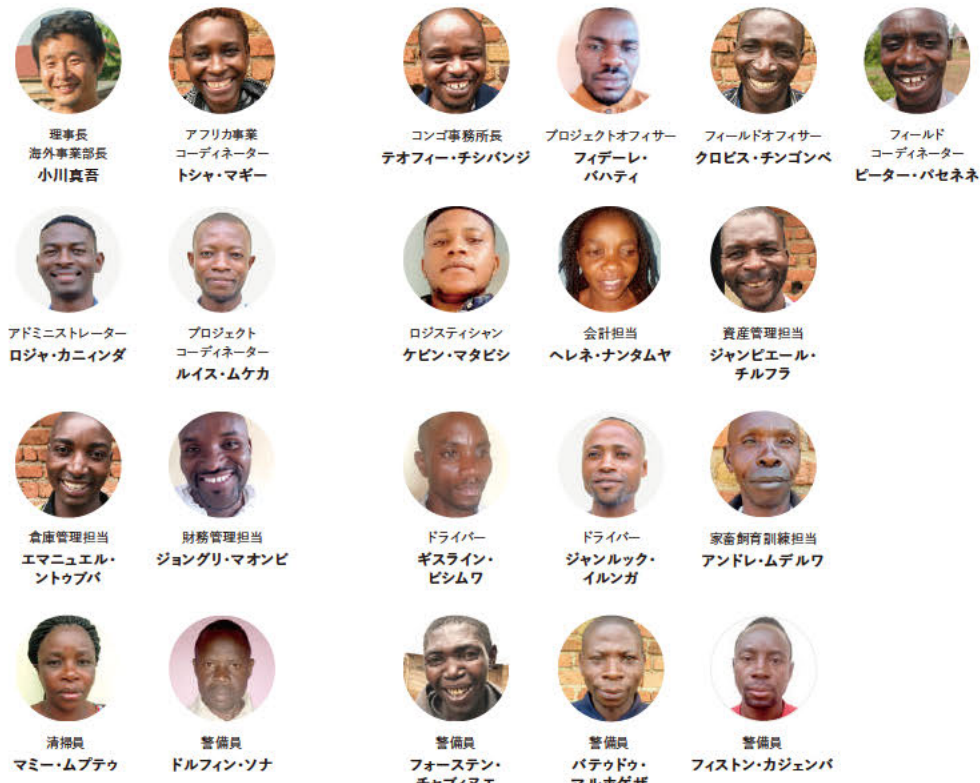
大館事務所



カンボジア事務所



コンゴ事務所



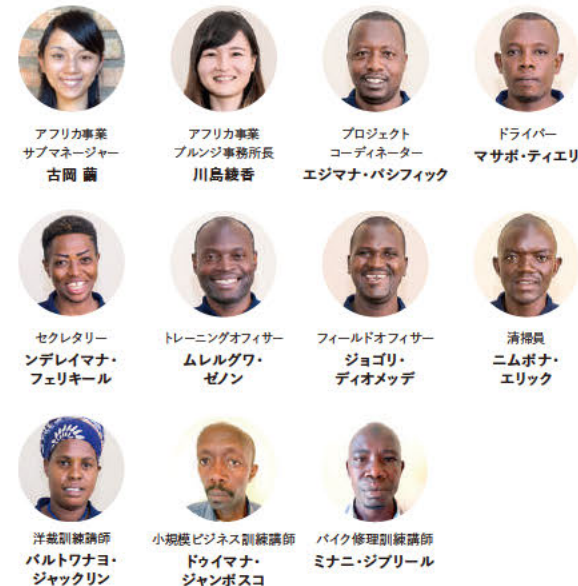
佐賀事務所



ラオス事務所



ブルンジ事務所



ハンガリー事務所



ウガンダ事務所(グル)



ウガンダ事務所(アジュマニ)



活動地域・内容 / 解決に取り組む課題



コンゴ民主共和国	● 最脆弱層世帯の養蜂ビジネス起業支援プロジェクト ● 子どもの徴兵予防プロジェクト ● 紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上支援プロジェクト ● 紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト ● 新型コロナウイルス対策支援事業 ● 紛争と洪水被害のリスクに晒された脆弱層のレジリエンス向上プロジェクト
ウガンダ共和国	● 元子ども兵社会復帰支援プロジェクト ● 元子ども兵社会復帰フォローアッププロジェクト ● 新型コロナウイルス対策支援事業 ● 畜産支援による酪農組合開発事業(第2フェーズ)後方支援事業 ● 南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援フォローアッププロジェクト ● 南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト
ブルンジ共和国	● 社会的弱者世帯の子どもの保護と自立支援プロジェクト ● 農村部コミュニティにおける社会的弱者(EVIs)世帯の自立と自治支援プロジェクト
カンボジア王国	● 地雷撤去支援プロジェクト ● 地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト ● 地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援フォローアッププロジェクト
ラオス人民民主共和国	● 社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト
日本	● 啓発活動(講演、寄付を通じた平和な社会づくりへの参画の呼びかけなど) ● 政策提言(調査・研究・事業評価活動など) ● 大槌刺し子(地域の生き甲斐づくり、コミュニティ形成・維持、地方創生など)

🌐 目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的(ヴィジョン)

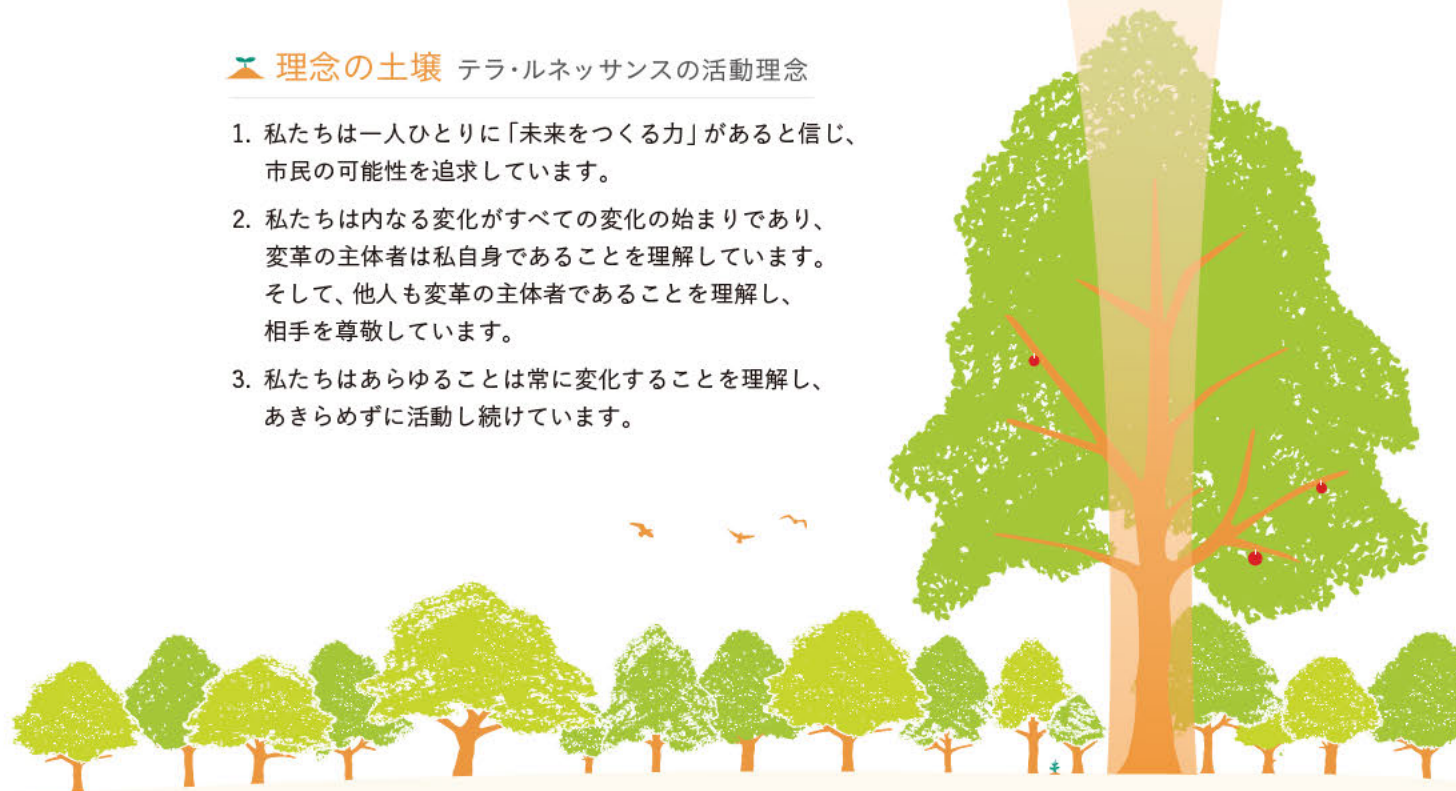
すべての生命が安心して生活できる社会(=世界平和)の実現

🌳 使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命(ミッション)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

🌱 理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追求するために行われます。ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

2021年度 活動成果のトピックス

2021 → 2022 ACTION TOPICS

ラオス → P12～

子どもたちを事故から守れるよう、 不発弾回避教育を24回実施

不発弾による事故を防ぐため、対象6村で2回ずつ、幼稚園、小学校（年長組1・2年）において計12校で1回ずつ回避教育を実施しました。



絵本やカードで
理解を深めます

病気になるように
しっかりお世話します



カンボジア → P13～

牛やヤギなどの家畜販売により、 これまでの累計収入が約911万円に

家畜銀行から貸し出した牛、ヤギ、鶏などの販売により、2021年度中の収入は合計約317万円、また2017年からの累計収入は約991万円となりました。

ウガンダ → P20～

新型コロナ対策、感染予防のため 8,000枚のマスクを制作・配布

社会経済的に脆弱な女性を対象にマスク作りの就業機会を提供。制作したマスクを医療従事者やエッセンシャルワーカー、元子ども兵などに配布しました。



コロナ禍でも
収入を得られました

洪水や災害に対する
予防・対処も学びます



コンゴ → P27～

洪水被害にあった住民400名に 仕事の機会を提供

国連開発計画（UNDP）と協働し、洪水被害を受けたコミュニティで、橋、水路、学校の教室、トイレの建設を住民参加型の形式で行いました。

ブルンジ → P23～

ストリートチルドレン“0”を 目指す新たな挑戦をスタート

新規事業地において自治体との関係性構築、土地探しから始めて訓練施設を建設し、41名に対して洋裁、バイク修理、小規模ビジネス、就学支援を行いました。



大槌刺し子
Otsuchi Sashiko

大槌刺し子 → P32～

プロジェクト開始から10周年 名称を「大槌刺し子」へ

プロジェクト開始から10年を迎え、「大槌刺し子」へ名称変更するとともに、ロゴやウェブサイトのリニューアルを行いました。

啓発事業 → P38～

啓発・平和教育がさらなる進化へ、 「グローバル人財育成」を実践

佐賀県の東明館高等学校と包括連携協定を締結し「グローバル人財育成事業」を開始しました。世界または地域の平和構築に資する人財の育成を目指します。



ウガンダなどを事例に
問題解決型学習を実施

20周年記念事業の取り組み

2021年、認定NPO法人テラ・ルネッサンスは、団体創設から20年の節目を迎えることができました。様々な記念事業を通じて皆さまへの「感謝」とともに、これからの「決意」と「展望」をお伝えしました。



20周年記念事業を実施するにあたり〔76社/名〕もの法人・個人の皆さまに、協賛という形でご支援いただきました。心より御礼申し上げます。

1. チャリティーオークション

創設20周年を迎えるテラ・ルネッサンスの記念事業のはじまりとして、2021年4月中旬から4週にわたり、『チャリティーオークション〜憧れのあのひとと一緒に、元子ども兵の自立を応援!!〜』を開催しました。このチャリティーオークションはより多くの方に私たちの活動を知っていただき、支援につながるアクションを起こしてもらうため、女優の石原さとみさんや歌手の森友嵐士 (T-BOLAN) さんなど総勢12名の著名人の方々にご協力いただきました。その結果、開催期間は1ヶ月程でしたが、総入札件数：1,074件、総落札金額：531,651円とたくさんの方にご協力・ご参加いただくことができました。たくさんの方の応援をお寄せいただき、本当にありがとうございました。



2. 記念式典などのイベント開催

7月のキックオフイベント「こうして、ぼくらは世界を変えるために一歩を踏み出した」、12月のアジア・アフリカの現地スタッフが主催するイベント「Unity in Diversity〜現地目線で語る、テラ・ルネッサンス20年の活動と成果〜」。そして、翌年2月には20周年記念事業の集大成となる20周年記念式典「すべての生命が安心して生活できる社会(世界平和)の実現」を目指して」をそれぞれ開催しました。コロナ禍の中、すべてオンラインでの開催となりましたが、国内・海外の全てのスタッフがそれぞれに連携し、ご支援くださる皆様へこれまでの「感謝」と、これからの活動に対する「決意」と「展望」をお伝えすることができました。



3. 公式ユニフォーム

日本を含む世界6か国で活動するすべてのスタッフが着用する「公式ユニフォーム」を制作しました。ユニフォームには、日本環境設計株式会社が手掛ける「BRING」を採用。「ポリエステル(石油資源)を減らすことや使うことをやめるのではなく、ポリエステルをサステナブルな原料に変える」という同ブランドのポリシーに強く共感したからです。そして、紛争解決を目指す私たちが使う物から、紛争の原因となる石油の利用を減らそうとも考えました。日本のスタッフはイベントなどで着用し、海外のスタッフは支援現場で活動する際に着用することで、チームとしての一体感が高まっています。



4. 20周年記念ブログ/ラジオ

テラ・ルネッサンスのこれまでとこれからをお伝えしたいと考え、特別コンテンツ「轍」、「軌跡」、「テラルネゆるっとラジオ」を制作しました。「轍」や「軌跡」では、海外駐在員たちが抱く平和への想いや、海外事業が辿ってきた道のりについて、ブログや動画にてお伝えしました。また、「テラルネゆるっとラジオ」では、職員・インターンが対談する音声コンテンツを制作。日頃の業務をはじめ、テラルネで活動する想い、これからの願いなどについてお話ししています。どれも、普段お見せていなかった事業の側面やスタッフの姿を知っていただけるコンテンツです。この20周年の節目にぜひご覧いただき、テラ・ルネッサンスをもっと好きになっていただけると嬉しいです。



5. 感謝状/新聞広告

「テラ・ルネッサンスを応援いただく皆さまに感謝の気持ちをお伝えしたい!」そんな想いから、『支援者さまありがとうチーム』が発足。議論を重ねた結果、ファンクラブ会員をはじめとし、これまでテラ・ルネッサンスをご支援いただいた皆さまへの「特別な感謝状」を制作しました。さらに、ご自宅や職場で感謝状を飾っていただくことができるように紙製のフレームを用意し、活動の様子がわかる写真カードも同封。たくさんの方から、喜びのメッセージを頂戴することができました。また、9月には京都新聞に広告を掲載し、京都の地でテラ・ルネッサンスを育てていただいた京都の皆さまに対して、20年の活動成果と感謝をお伝えしました。





ハンガリー国境地域のヘルプセンターに避難する家族の様子。
ウガンダの元子ども兵が作ってくれたマフラーを手渡した。



1 子どもの教育・心理社会支援のために絵本や遊具などを提供したときの様子。2 避難民の方々へ提供される炊き出しの様子。3 炊き出し施設に冷蔵庫などを整備する様子。4 シャボン玉をつかった演劇を披露する難民の夫婦と熱狂する子どもたち。

「CSCs」とは...

Cash for Socail Contribution (社会貢献型現金給付支援) の略称で、テラ・ルネッサンスが提唱する新たな自立支援の手法。対象者の主体性を最大限尊重しながら社会貢献の機会を提供し現金を給付することで、本人だけでなく周囲の人々を支えることができる。

中間報告レポート

ウクライナ・コンゴ危機緊急支援

2022年2月24日よりロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻が開始され、多くの市民が被害に遭い、避難を余儀なくされています。20年以上、アジア・アフリカで紛争の被害を受けた人々の支援を続けてきたテラ・ルネッサンスにとって、ウクライナ危機はとても他人事とは思えませんでした。そこで、ウクライナの隣国ハンガリーにスタッフ合計3名を先遣隊として派遣。ロシアの軍事侵攻を逃れたウクライナ難民・避難民の調査および緊急支援を実施することを決定しました。

現地調査で分かったことは、難民・避難民と言ってもその実態は多様で、これだけ世界中から関心と支援が集まっている中、「取り残されている人々がいる」ということでした。先遣隊として現地の状況を見てきた佐々木は、次のように語ります。

「テラ・ルネッサンスらしい緊急支援とは何か、自分たちだからこそできることは何か、この2点に集中して情報収集・調査を行った結果、「取り残されている人々」に辿り着きました。それは、ハンガリー国内の国境近くの村に留まる少数民族ロマの人々や、ウクライナ西部トランスカルパチア地方に集中する国内避難民と、彼ら彼女らを受け入れ支援するホストコミュニティの人々でした。支援が行き届いていないばかりか、世間の関心も薄く、まるで忘れ去られているかのようでした。」

私たちテラ・ルネッサンスは、これまで「最も脆弱な人々」に支援を届けてきました。その想いを本緊急支援でも受け継ぎ、地道に綿密な調査を行った結果、本当に支援を必要としている人たちに辿り着くことができたのです。

支援を必要としている「取り残された人々」

「誰ひとり取り残さない支援」を目指して、特に支援の手が届いていない脆弱な難民・避難民に対する支援活動を開始しました。5月よりハンガリーに事務所を開設。難民・避難民への食料・日用品の支給、炊き出し拠点の設置、避難場所・倉庫の整備、子どもの教育・心理社会支援等の緊急支援に加え、難民（避難民）の方々に炊き出しや清掃・整理作業等の機会を提供し、それに対して現金を給付することで、生活を支える支援=Cash for Socail Contribution (社会貢献型現金給付支援) も実施しています。これまで約800名の難民・避難民の方々へ支援を届けることができました。

同時に、ウクライナ危機に国際的な注目が集まる中、関心と支援が薄れていく世界各地の紛争にも、目を向けてもらいたい。そこで、特に長きに渡

る紛争で、多くの「いのち」が危険にさらされているコンゴ民主共和国での支援の必要性も訴えました。おかげさまで多くの方に関心と支援をお寄せいただき、最も脆弱な人々へ支援を届けることができます。(写真下：洋裁の訓練に励むコンゴの女性たちと小川の様子)



洋裁技術の習得によって日雇い労働の 4倍以上の収入を稼ぎ、地域のいいお手本に



シングルマザーのレイアさん（仮名）。安定した収入がない中で3人の子を抱え、明日の計画もできなかった彼女。洋裁訓練を終え開業後は、グループで始めたお店がうまくいかず各自独立開業の再スタートを切ったり、政府の道路拡張政策で引っ越しを余儀なくされたこともありましたが、懸命に働いてきました。そして今では1日に約480円～2,900円を稼げるように（ブルンジの日雇い労働の平均賃金は約110円）。「以前は汚い服を着ていたけれど、今は自分と子どものために服や食事、学用品を買うことができるし、4匹の豚を買ったり、耕作用の土地を借りられるようになった」と嬉しそうに話してくれました。私たちの誇りであり、地域のいいお手本になっています。（写真左：開業した店舗で働くレイアさん。写真右：洋裁訓練の修了証書を受け取る様子）

コンゴの紛争下で養蜂ビジネスを開始した受益者たち。

国際協力事業 アフリカ

2021 → 2022 AFRICA REGION PROJECT UGANDA CONGO BURUNDI

アフリカでは、ウガンダ、コンゴ民主共和国（以下コンゴ）、ブルンジの3か国で、元子ども兵や南スーダン難民など紛争被害者や社会的弱者を対象に、自立に向けての職業訓練や、収入向上支援を行いました。また、新型コロナウイルスの影響が大きいウガンダとコンゴでは、感染拡大予防の啓発活動や最脆弱層への生計支援活動を行いました。新たな活動として、ウガンダでは、元少女兵の子ども・若者を対象に寺子屋教室やカウンセリングを実施、コンゴでは、国連開発計画（UNDP）と協働で紛争や災害の影響を受ける脆弱層を対象にコミュニティインフラの整備や、洪水リスクを早期伝達するシステムを構築しました。ブルンジでは、ストリートチルドレンや保護者を対象に、多目的施設を建設して包括的な自立支援を開始しました。



理事長
海外事業部長
小川 真吾

課題と展望

物価高騰の影響を受ける最脆弱層へ支援の強化を

同3か国において、新型コロナウイルスによる政府の規制は緩和傾向ですが、特にウガンダ、コンゴはこれまでの社会経済活動の制限などにより脆弱層の生活は厳しく、3か国ともコロナ禍以前から抱える課題もあります。その中で、気候変動やウクライナ危機などによる物価高騰の影響でリスクに晒されているため、今後も最脆弱層を中心とした支援の強化が必要です。ウガンダでは、脆弱層の対象者に対する職業訓練後の収入向上支援の強化と生計向上を維持できるようフォローアップ、コンゴでは、紛争の影響を受ける対象者への緊急支援と、自立に向けた職業訓練などを並行して行い、対象者が様々な危機やリスクに晒されながらもレジリエンスをいかに向上するかが大きな課題です。ブルンジでは、対象者のレジリエンス向上のため、状況に応じたきめ細かい支援の強化が必要です。

[ウガンダ] 元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ、経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数 (単年度)	元子ども兵55名+受け入れ家族 最貧困層住民 57名
受益者カテゴリー	元子ども兵およびその家族、 最貧困層住民	事業実施期間	2005年5月～継続中



コロナ禍の中、家族を支えるために仕事に励む

元子ども兵18名を含む10期生41名が、洋裁、服飾デザイン、木工大工の技術を習得し職業訓練を修了。コロナ禍のロックダウンによる影響で、開業に必要な資機材の授与も延期が続いていましたが、2021年9月以降は本格的にグループでの開業支援を開始することができました。また、すでに開業している元子ども兵も、コロナ禍の不安定な経済状況の中で家族を支えるために、懸命に仕事に取り組んでいます。課題のあるグループも若干ありますが、一般住民以上の収入を上げているグループもあります。自立への道のりは、うまくいく時、いかない時など波があります。引き続き必要に応じて相談に乗ったり、必要なアドバイスなどを行い、フォローアップ支援を強化していきます。



① 最終試験の課題に取り組む洋裁クラスの受益者。

② ビジネスを開始し施設で仕事をしている木工大工クラスの受益者。

③ アチャリの伝統ダンス（心理社会支援）の様子。

[ウガンダ] 元子ども兵社会復帰支援フォローアッププロジェクト

事業の目的	自立を果たした元子ども兵が持続的に生計を維持し、さまざまなリスクや困難にレジリエントに対応できる環境をつくること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	受益者数 (単年度)	30名
受益者カテゴリー	ウガンダ北部における元子ども兵 社会復帰支援プロジェクト修了生	事業実施期間	2021年4月～2022年3月



訓練終了後の経過を観察、コロナ禍による影響から必要な支援を実施

訓練を修了した元子ども兵のほとんどは、生計を維持し、彼ら彼女らが養育する子どもたちの衣食住も満たすことができていましたが、一部、その子どもたちや若者（10代）の中で、コロナ禍の学校閉鎖後、心理社会的な負担を強いられ、犯罪グループに勧誘されるなどのリスクを負っていました。そのため、2021度のフォローアップでは、元子ども兵が養育する子ども、若者12名（13歳～18歳）を対象に、寺子屋教室（インフォーマル教育）を実施しました。結果、うち11名は、寺子屋での勉強を経て、学校再開後、地元の小学校や中学校に無事に復学することができました。同時に、個別カウンセリングや親族との関係性構築、就業準備など包括的にサポートし、残りの1名（18歳）はグラフィックデザインの会社に就職が決まりました。

① 寺子屋で成績表を受け取った修了生の子どもたち（13歳～17歳）。

② グループカウンセリングにおいて、夢や将来に向けての希望を絵や文章で表現しました。

3 [ウガンダ] ウガンダにおける新型コロナウイルス対策支援事業

事業の目的	新型コロナウイルスの感染を予防するとともに、最脆弱層の人々の社会経済的ダメージを最小限に抑えること		
事業地域	ウガンダ / 北部地域	事業実施期間	2021年4月～2022年3月
受益者カテゴリー	難民、元子ども兵、最脆弱層、医療従事者、エッセンシャルワーカー		
受益者数(単年度)	約5,000名		



コロナ禍の中で、マスク作りの就業機会を提供

2021年度は、コロナの感染による重症化、死者数が徐々に軽減していった一方で、2020年以降の社会経済活動の制限により、多くの脆弱層の人々の暮らしが危機的な状況に陥っていました。そのため、脆弱な女性を対象にマスク作りなどの就業機会を提供し、対象者の生活支援を行いました。また、この活動により8,000枚のマスクが制作され、それらを医療従事者やエッセンシャルワーカー、元子ども兵などに配布することで感染予防の活動に寄与することができました。

1 マスクを製作する受益者の女性。

2 生産したマスクを地元の診療所に供与する様子。



4 [ウガンダ] 畜産支援による酪農組合開発事業（第2フェーズ）後方支援事業

事業の目的	酪農技術の普及、小規模農家の手頃な金融サービスへのアクセスを強化すること		
事業地域	ウガンダ / グル県、オモロ県	事業実施期間	2019年4月～2022年3月
受益者カテゴリー	小規模農家		
受益者数(累計)	計74世帯：①パイロット事業の酪農支援対象44世帯 ②第2フェーズの酪農支援対象30世帯		

2019年4月から開始した第2フェーズの酪農支援では、酪農組合の設立を支援し、現地の農民が酪農に必要な乳牛を、マイクロリーディングを活用して導入するための活動が実施されています。公益財団法人日本国際協力財団が実施するこれらの事業に対して円滑な後方支援を行うことができました。

5 [南スーダン] 難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援フォローアッププロジェクト

事業の目的	職業訓練と開業支援を受けた難民居住区の南スーダン難民およびホストコミュニティの最貧困層の生計が向上すること		
事業地域	ウガンダ / アジュマニ県	受益者数(累計)	南スーダン難民112名およびホストコミュニティ住民86名
受益者カテゴリー	南スーダン難民およびホストコミュニティ最貧困層住民	事業実施期間	2021年8月～2023年8月

安定的なビジネス運営がなされるように

2021度のフォローアップ支援では、自立支援プロジェクトによりビジネスの開業をしたアジュマニ県の難民とホストコミュニティ住民の受益者個別もしくはグループに対して、ビジネス運営に関する助言などを行ってきました。依然としてコロナ禍の社会経済的影響を受けている状況ではありますが、受益者個人もしくはグループ単位で、材料調達、収支管理、顧客対応、貯蓄活動などを行えるようになってきました。また、それによって、受益者自身で、安定的なビジネス運営がなされるようになってきています。

1 養豚ビジネス、親豚の飼育の様子。

2 家庭訪問による受益者のビジネス・社会関係性のフォローアップ。



6 [ウガンダ：南スーダン] 難民居住区およびホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト

事業の目的	難民居住区の南スーダン難民およびホストコミュニティの最貧困層が、職業訓練により必要な能力を身につけ開業し、収入を得ること		
事業地域	ウガンダ / アジュマニ県	事業実施期間	2018年2月～2021年8月
受益者カテゴリー	南スーダン難民およびホストコミュニティ最貧困層住民		
受益者数(累計)	南スーダン難民112名およびホストコミュニティ住民86名		



洋裁や編み物、木工大工などの訓練を修了、収入向上に必要な知識や技術を習得

2020年度に受け入れた南スーダン難民と難民を受け入れるホストコミュニティから3期生89名が、洋裁、編物、木工大工、レンガ積み、溶接、養豚の6分野に分かれて訓練を受け、収入向上のために必要な技術・知識を習得しました。訓練修了後にはそれぞれの受益者が洋裁、編物、木工大工、溶接の店舗を構え、またレンガ積み、養豚のグループを形成して開業し、88名が収入を得ることができています。さらに、アジュマニ県のコロナ対策タスクフォースからの要請を受け、溶接や木工大工の受益者が金属製や木製の手洗いスタンドを制作しました。また、3期生の78%が、支援開始前に比べてトラブルや差別偏見が減少し、周辺住民との相互扶助活動に参加しています。

- 1 木工大工の職業訓練の様子。
- 2 洋裁の職業訓練の様子。
- 3 受益者が制作した金属製の手洗いスタンド。

7 [ブルンジ] 社会的弱者世帯の子どもの保護と自立支援プロジェクト

事業の目的	社会的弱者が家庭内の絆を強め、様々な困難とリスクに晒されながらも、子どもが家族とともに基本的ニーズを満たすことができる環境を整える		
事業地域	ブルンジ / カンザン県	事業実施期間	2021年4月～2024年3月
受益者カテゴリー	社会的弱者：①ストリートチルドレンとその保護者 ②シングルマザーなど子どもを持つ脆弱層世帯		
受益者数(累計)	41世帯約200名		



ストリートチルドレン“0”を目指す新たな挑戦をスタート

新規事業地において自治体との関係性構築、土地探しから始めて訓練施設を建設し、41名に対して洋裁、バイク修理、小規模ビジネス、就学支援を行いました。また、家庭訪問やコミュニティワークを通して対象者間、家族やコミュニティの人々との関係性強化を促進しています。対象者の半数はすでにビジネスを開業、残り半数は2022年度に供与予定の資機材を使用し、学んだ技術を活かして収入向上活動を実施します。今はまだ開業後の収入が不安定な時期が続いていますが、2022年度開業予定の対象者も含めて自立に向けてフォローアップを続けます。また、2022年度には新たな対象者の受け入れ、自治体(郡)やパートナー団体とともに啓発ワークショップを行うなど、活動の幅を広げていきます。

- 1 完成した施設の様子。
- 2 バイク修理ビジネスの様子。
- 3 小規模ビジネス開業後の様子。

8 [ブルンジ] 農村部コミュニティにおける社会的弱者 (EVI) 世帯の自立と自治支援プロジェクト

事業の目的	社会的弱者が農村コミュニティ内で、周囲とのつながりを強化し、基本的ニーズを満たした生活ができる環境を整えること		
事業地域	ブルンジ / ムランビヤ県、キガンダ郡	受益者数(累計)	212世帯(約920名)
受益者カテゴリー	社会的弱者(シングルマザー、ストリートチルドレン、最貧困層住民)	事業実施期間	2018年4月～2022年3月



それぞれの心の中に育まれる「自立心」

これまで養蜂、洋裁、ヘアドレッシング、養豚の技術を学んだ対象者の収入向上支援を行いました。対象者の中には稼いだお金で土地や家畜を購入したり、他の社会的弱者を雇用している人がある一方、はじめは養蜂に挑戦したものの、うまくいかず小規模ビジネスへ転向し、試行錯誤しつつ今も自立への道を歩んでいる人もいます。4年間継続して家庭訪問やフォローアップ、自治体とのリスク管理研修等を通して寄り添い続けたことで、今は順調に収入を得ている人も、まだまだこれからのも、心の中に自立心が育まれています。また、訓練施設は当会支援の機材とともに郡へと引き渡し、今では郡主導の職業訓練校として生まれ変わり、社会的弱者に対する公共サービス向上の一端を担っています。



① 施設の引き渡し合意書への署名(写真右はキガンダ郡長)。 ② 元ストリートチルドレンたちが開業したヘアドレッシングの店舗。

9 [コンゴ] 最脆弱層世帯の養蜂ビジネス起業支援プロジェクト

事業の目的	紛争下で暮らす最脆弱層が養蜂技術を得し、養蜂ビジネスを起業することで、収入源を確保すること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、カヘレ行政区、カロンゲ区域	受益者数(累計)	最脆弱層 30名およびその家族約250名
受益者カテゴリー	最脆弱層(主に寡婦、国内避難民、最貧困層)	事業実施期間	2021年4月～2022年3月



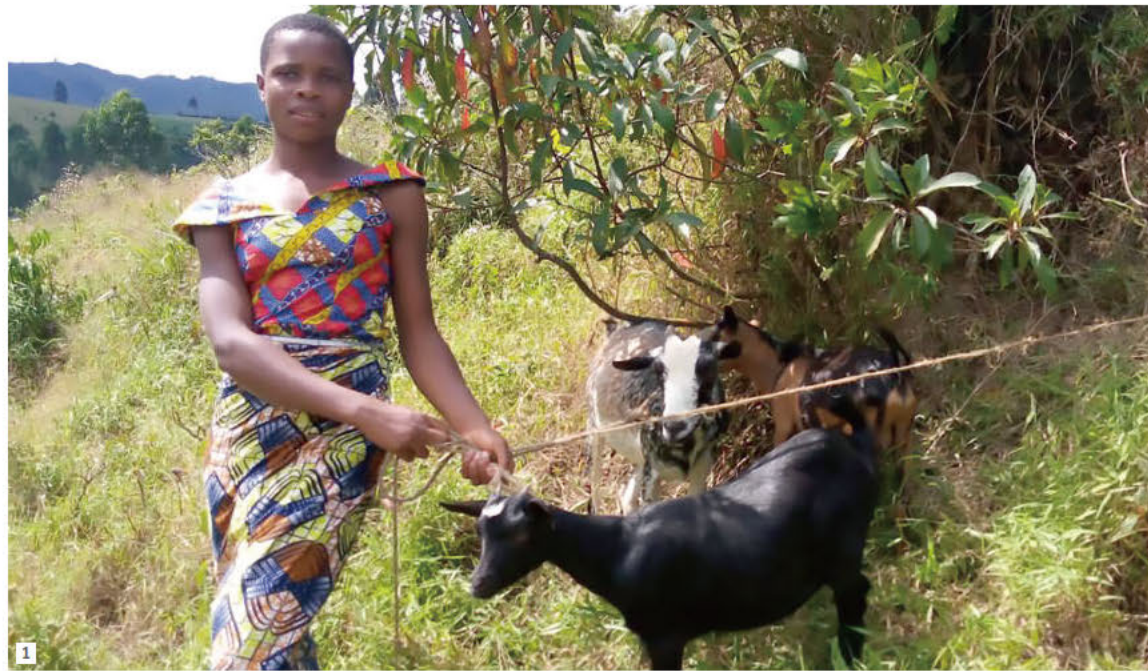
地元産の蜂蜜「ウモジャハニー」を製品化

紛争の影響を受けた最脆弱層に対して、養蜂の技術訓練を継続して行い、2021年度はブルンジからようやく運搬できた蜂蜜の加工機材を使用し、加工技術訓練を完了しました。それにより、対象者全員が養蜂、蜂蜜の加工技術を得し、地元産の蜂蜜を製品化することができました。蜂蜜の商品名である「UMOJA (ウモジャ=ひとつになろう、連帯しよう、繋がろうの意)」に込めた、「ひとつに繋がれば、きっとどんな困難も乗り越えていける」という想いをもとに、地域一丸となって取り組んでいます。加えて、より高い技術を習得するため、フランス人の養蜂専門家による研修を実施しました。これらの支援により、対象者は、養蜂ビジネスによる収入源を確保できるようになっています。



① 養蜂の技術訓練の様子。 ② 加工後のパッケージを完了した対象者の女性。

事業の目的	紛争下で暮らす元子ども兵および孤児が就学し、その受け入れ家族が収入源を確保することで、子どもの徴兵を予防すること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、カヘレ行政区、カロンゲ区域	事業実施期間	2021年4月～2022年3月
受益者カテゴリー	元子ども兵・孤児およびその受け入れ世帯		
受益者数(累計)	①元子ども兵および孤児250名 ②受け入れ家族100世帯(約300名)		



コロナ禍でも、誰一人武装グループに徴兵されず教育の機会を提供

初等教育から取り残された孤児や元子ども兵とその受け入れ家族を対象に、家畜の飼育技術訓練、収入向上支援、教育支援を継続しました。これまで、ヤギとモルモットを供与した100世帯へ補完研修を個別に実施、家畜販売についての助言やリスクに対する啓発活動を行った結果、97世帯が繁殖に成功、67世帯が繁殖した家畜を販売し、収入を子どもの教育費に充当できました。コロナ禍で収入が減少した際にも貯蓄代わりのヤギを販売することで、その間の衣食住を満たすことができた事例も多く見られました。加えて、保護者の多くが教育にも意識を向けるようになり、コロナ禍の中、誰一人武装グループに徴兵されることなく、250名の子どもたちへ教育の機会を提供することができました。

① コロナ禍で繁殖したヤギを販売することで衣食住を満たすことができた対象者。

事業の目的	対象者が新たな収入源を維持し、生計を向上するとともに、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)を増大し、リスクや困難に対するレジリエンスを向上すること		
事業地域	コンゴ / 中央カサイ州、カナンガ市	事業実施期間	2021年4月～2022年3月
受益者カテゴリー	紛争被害女性(国内避難民、寡婦、性暴力被害女性、孤児、最貧困層女性)		
受益者数(累計)	直接受益者: 280名 間接受益者: 直接受益者の家族 1,953名		



コロナ禍の影響を受けつつ学んだ技術で生計維持

紛争被害女性を対象に、パイナップルジュース作り、石鹸作りの生産性向上や販売促進支援、洋裁技術のフォローアップ支援を行いました。また、各グループ内外の協力体制を強化し、グループビジネスの運営方法の指導、法的支援もあわせて実施しました。コロナ禍の影響を受けつつも、ジュース作り・石鹸作りグループは新しく開発した新製品の販売を強化し、生計を維持することができているほか、ジュース作りのグループは、周囲の貧困層を雇用し、社会的な繋がりを広げることもできています。加えて、60名の紛争被害女性が洋裁訓練を修了し、その後、洋裁店を開業し、全員が収入源を確保。このうち54名(90%)は1日平均1.5ドル以上の収入を得て、家族の衣食住を賄うこともできています。



① パイナップルジュース作りに取り組む女性グループ。 ② 洋裁訓練後に洋裁店を開業したグループ。

〔コンゴ〕 紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト

事業の目的	過去に支援を受けた紛争下で暮らす紛争被害女性の生計維持を促進すること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、ウビラ行政区 およびカレヘ行政区	事業実施期間	2021年4月～2022年3月
受益者カテゴリー	紛争の影響を受けた脆弱層女性（寡婦、国内避難民、性暴力被害者、最貧困層）		
受益者数(累計)	紛争被害女性 300名		

過去に支援をした、コロナ禍で経済的な打撃を受けている女性（洋裁ビジネス従事者）に対し、マスクなどコロナ禍で必要とされる製品をつくる仕事を提供しました。それらの製品を他事業の受益者や子どもたちに供与することで、女性たちの収入維持と人々の感染予防を同時に行うことができました。また、乳製品の生産協同組合に対し、販売促進のためのアンテナショップ開業に向けて、助言と初期費用の支援を行ったことにより、チーズや牛乳の生産拠点に近い都市部にアンテナショップを開業し、販路を拡大することができています。



〔コンゴ〕 新型コロナウイルス対策支援事業

事業の目的	新型コロナウイルスの感染を予防するとともに、最も脆弱な人々の社会経済的ダメージを最小限に抑えること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、中央カサイ州	事業実施期間	2021年4月～2022年3月
受益者カテゴリー	難民・国内避難民、紛争被害女性、元子ども兵、最貧困層、地域住民、洪水被害者・被災者		
受益者数(累計)	約5,000名		

感染予防のため、手洗い啓発、マスクの使用方法、3密回避のチラシなどの配布や掲示をし啓発活動を行いました。また、マスク作りの仕事提供などを通し、コロナ禍で経済的に脆弱な女性の生計支援を行いました。一方で、コロナ感染による死者数減少に伴い政府規制も緩和され、マスク着用や3密回避などの行動変容には十分な成果が見えづらいものの、手洗い啓発はコロナ以外の感染症予防にも重要なため、一定の行動変容に繋がっています。

〔コンゴ〕 南キブ州における紛争と洪水被害のリスクに晒された脆弱層のレジリエンス向上プロジェクト

事業の目的	南キブ州において、洪水や紛争の影響を受けた脆弱な人々のレジリエンスを向上すること		
事業地域	コンゴ / 南キブ州、ウビラ行政区 およびワルング行政区	受益者数(累計)	直接受益者：1,209名 間接受益者：約47,500名
受益者カテゴリー	紛争被害女性、最貧困層住民、 コミュニティリーダー	事業実施期間	2021年9月～2022年3月



洪水被害を受けたコミュニティで、洪水被害の予防や軽減活動を実施

国連開発計画（UNDP）と協働し、洪水被害を受けたコミュニティで、橋、水路、学校の教室、トイレの建設を住民参加型で行い、90%以上が完成しました。建設作業は、資機材の運搬以外全て手作業で進め、住民約400名に仕事の機会を提供できました。同時に、洪水被害を予防・軽減するため、降雨量や風向き等の気象情報を観測できる気象計測器を4箇所に設置し、そのデータをラジオや無料電話でコミュニティに共有することで、洪水のリスクを早期に住民に伝達するシステムを構築できています。今後はその使用方法やメンテナンス方法についての研修、地元ラジオ局の通信能力強化とコミュニティリーダーおよび地域住民の自然災害に対する予防・対処能力向上のための啓発活動を行います。

① 水路の整備に取り組む女性たちとスタッフの様子。

② 気象計測器の設置の様子。

③ 洪水被害を受けたコミュニティでの住民参加型の橋建設の様子。

15 [コンゴ] 中央カサイ州における紛争と洪水被害のリスクに晒された脆弱層のレジリエンス向上プロジェクト

事業の目的	中央カサイ州において、地域間紛争の影響を受けている脆弱な人々のレジリエンスを向上すること		
事業地域	コンゴ / 中央カサイ州、ディベレンゲ行政区	受益者数(累計)	直接受益者: 2,360 名 間接受益者: 約 37,500 名
受益者カテゴリー	紛争被害女性、最貧困層住民、コミュニティリーダー	事業実施期間	2021 年 9 月～2022 年 3 月



紛争により対立している村で、住民参加型建設を通じて 240 名に就業機会を提供

南キブ州における活動と同様に、国連開発計画 (UNDP) と協働し、地域間紛争により対立している 2 つの村において、紛争などにより荒廃した診療所や市場、コミュニティ施設の建設を住民参加型で行い、90%以上が完成しました。同地でも、地元住民に建設作業に参加してもらい、約 240 名に仕事の機会を提供できました。あわせて、市場の運営管理体制も整えていきます。また、脆弱な状況に置かれている 60 名の対象者への生計向上支援として、洋裁や石鹸作り、農作物の一次加工 (パーム核油の加工技術) の技術訓練を実施し、すでに製品作りに成功しています。今後は学んだ技術からの収入向上支援や、コロナ感染予防のために製作したマスクや石鹸、啓発ポスターの配布を実施していきます。

1 完成した市場の様子。 2 診療所の建設に従事した女性たち。 3 石鹸作りの職業訓練の様子。



\ column /

新型コロナ、ロシアのウクライナ侵攻…
社会情勢とアフリカに生きる人々

ウクライナで戦争が始まった時、真っ先に、その苦しみと悲しみに心を痛み、声を上げてくれたのは、これまで私たちが支援してきた元子ども兵のウィリアム (仮名) でした。彼は 14 歳の時に誘拐されて、9 年間、強制的に子ども兵として戦いに駆り出された元子ども兵です。彼は、ウクライナの戦争を知って自分と同じように紛争の犠牲になった、ウクライナの人たちのこと想い「自分にできることをしよう」と言ってくれました。ウクライナは寒いと聞いたので、避難民の子どもたちが、少しでも暖かくなれるようにと、マフラーを編みはじめました。彼は、爆撃を受けて左半身が麻痺し重度の障害を持っていますが、それでも、ウクライナの人たちのことを想い、一生懸命に一枚一枚マフラーを編んでいました。

私たちウガンダ人は、これまで日本人たちに、たくさんの支援をいただきました。そして今、その支援を受けた元子ども兵たちが、同じ紛争に苦しんでいるウクライナの人たちのことを想い、行動してくれていることを私は誇りに思っています。ウガンダより、日本の支援者の皆様に感謝を申し上げるとともに、ウクライナの人たちの命と暮らしが守られることを心より願っています。

アフリカ事業コーディネーター
トシャ・マギー

- 1 理事長の小川からマフラーを受け取るウクライナ難民の男の子。
2 ウクライナの人々を想い、「できることをしたい」とマフラーを編んだ元子ども兵のウィリアム。
3 マフラーを編む元子ども兵のウィリアム (写真右) と、スタッフのトシャ (写真左)。

未経験でも熱心に学び、生きる糧をみつけた



スワヤーさん(仮名)はラオスに住むモン族の女性で、不発弾事故の被害者です。出会った頃は、爆弾の破片が肝臓に残存し時々痛むために重労働ができず、手縫刺繍で僅かな収入を得ている状況でした。2020年当時、裁縫の経験は全くありませんでしたが、熱心に訓練に取り組み、訓練後はテラ・ルネッサンスの裁縫店で製作販売をしながら周辺の村人への裁縫の指導も行いました。また、自費でスラックス製作も学び、追加訓練でモン族の衣装や紳士服の訓練にも参加し、収入は日々増えています。さらに、日用品を仕入れて裁縫店の一角で販売することで顧客を引きつける工夫も。痛みを抱えながらも、自分の生きる糧をみつけた彼女は輝いています。



ロカブス村のファーマーズ・マーケットで村の農産物を販売する村人の様子。

国際協力事業 アジア

2021 → 2022 ASIA REGION PROJECT CAMBODIA LAOS

カンボジアとラオスの2か国で、地雷＆不発弾撤去を進めながら、地雷や不発弾の被害者を含めた障害者世帯やコミュニティへの生計向上や教育支援を実施してきました。カンボジアでは、引き続き機械チームによる地雷撤去支援を進め、村落開発支援として、モデルファームの建設、ファーマーズ・マーケットでの販売支援、家畜銀行などの活動をしました。バットアンバン州カムリエン郡の障害者世帯への生計向上支援事業は、フォローアップを実施。一方、ラオスでは、シエンクアン県ベック郡ヨートグム地域の不発弾汚染地域において、3歳から7歳までの子どもに不発弾回避教育と、不発弾被害者家族および貧困層を対象とした職業訓練(裁縫、キノコ栽培、養蜂)による生計向上事業を実施しています。



理事・アジア事業マネージャー
カンボジア事務所長

江角 泰

課題と展望

新型コロナの影響大、さらなる自立と自治の促進を

カンボジア、ラオスともに、2021年度は新型コロナウイルスの感染が拡大し、経済的な影響を大きく受けました。カンボジアでは、村の中で収入源を確保できる家畜飼育や野菜栽培を見直す村人たちが多く、継続して村人たちが村の中で生計を成り立たせる手段を提供するために、コミュニティの組織化や農協の支援を通じて、「自立」と「自治」を促進します。ラオスでは、幼稚園や小学校において不発弾の回避教育を実施しました。今後は、さらに学校や村で回避教育を行ったあと、子どもの不発弾に対する理解度を確認します。裁縫店の3店舗では、衣類の生産販売を開始し、収益も出てきています。暖かくなりキノコ栽培のメンバーも菌床パックの準備を開始しています。また、養蜂についていえば、2022年度は2021年度よりたくさんの蜂蜜が収穫できそうです。引き続き、各分野のメンバーの組織化を進めます。

1 [ラオス] 社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト

事業の目的	不発弾回避教育により対象地域の幼児らが爆発事故を回避するとともに、将来的に高等教育を受けられるよう「社会経済的に脆弱な人々」が技術を習得し、安定した収入を得られるようにする		
事業地域	ラオス/シエンクアン県 ベック郡ヨードグム地域	受益者数(累計)	直接受益者:1,510名 間接受益者:2,526名
受益者カテゴリー	不発弾被害者、 不発弾汚染地域の脆弱な世帯	事業実施期間	2020年4月～2022年8月



不発弾回避教育の実施と生活基盤の支援により、安全で安心な暮らしを目指して

ヨードグム地域の回避教育は、対象7村で2回ずつ、幼稚園、小学校(年長組1・2年)計12校で1回ずつ実施しました。2年次の不発弾被害者とその家族および最貧困層を対象とした裁縫(5名)、キノコ栽培(10名)、養蜂(26名)の職業訓練も修了し、現在は1、2年次のメンバーそれぞれが生産活動を行っています。専門家による技能面でのフォローアップ、経理アドバイザーによる収支管理も継続しました。2021年度の1年次裁縫メンバー9名(1名辞退)の合計収益は24,170,000LAK(約23万円)でした。2021年度の1年次キノコ栽培メンバーの収益は、カビや虫の発生もあり、初期投資を除くと1棟平均5,000円程度でした。さらに技能面でのフォローアップを継続します。養蜂は2021年度はじめに9名のみ収穫できて、5,800円程度の収益でしたが、その後は1・2年次メンバーともかなりの蜜蜂が集まり、2022年度はじめには多くの蜂蜜収穫が期待できます。

① 裁縫で安定した収入を得られるようになった不発弾事故被害者のスワヤーさん(仮名)。

② 紙芝居を使った不発弾回避教育に興味津々の幼稚園児の様子。

③ 2020年と比べて約10倍の蜂蜜を収穫した養蜂メンバー。

2 [カンボジア] 地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	地雷による脅威を削減することで、地雷被害を受けたカンボジアの農村地域の社会経済復興に寄与する		
事業地域	カンボジア/北西部地域	受益者数(累計)	41,961名以上、9,889世帯
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中



東京ドーム12.7個分の土地を安全にできました

カンボジアでは、2021年4月から2022年3月まで地雷除去する機械チームの運営費を、提携する地雷撤去団体MAGへ提供しました。最も地雷の被害の大きいバットバン州で、2021年6月まで機械チームが操縦する“Digger-250”という機械を展開し、その後“Medium Mine Wolf”という機械を使うチームへの運営費を支援しました。これにより1年間で39発の対人地雷を処理し、東京ドーム12.7個分に当たる約60万㎡の土地を安全にすることができ、12,563名に安全な土地を返還することができました。

① 2021年7月14日に視察したMAGの地雷撤去現場の様子。

② 地雷原で地雷撤去をするMedium Mine Wolf。



②

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減。地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷・不発弾事故を防止すること		
事業地域	カンボジア/バタンバン州	受益者数(累計)	約 400 世帯
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人 地雷被害者などの紛争被害者など	事業実施期間	2006 年 10 月～継続中



収入源の多様化により自立を促進

ロカブス村では、2016年から2022年3月までに家畜銀行から牛、ヤギ、豚、鶏、アヒルを104世帯(うち2021年度は新規29世帯)へ貸し出すことができました。家畜の販売によって、2017年からの累計で約641万円(うち2021年度は合計約251万円)の収入と鶏とアヒルの自家消費分による支出削減につながりました。また、村のモデルファームでは、貧困層2世帯が野菜や花などの栽培を支援し、ファーマーズ・マーケットで販売するとともに、家畜用の餌を製作する機械を設置し、豚、アヒル、鶏の飼料の製作販売を始めました。プレア・ブット村では、30世帯(うち2021年度は新規12世帯へ貸出)が、ヤギの飼育によって2017年からの累計で約79万円(うち2021年度は約39万円)の収入を得ることができました。さらに、アクセスが悪いため学校へ通えない小学生のために教育支援を提供しました。サムロン・チェイ村では、これまでに牛銀行で8世帯(うち2021年度は新規2世帯)へ雌牛を貸し出し、2017年から累計で約27万円の収入につながっています。



- ① 貸し出したヤギを見るロカブス村の男の子。 ② 豚飼育に成功して収入を得ているロカブス村の村人。
③ 村で製作した飼料を使って豚の餌を作るロカブス村の村人。

事業の目的	カムリエン郡の障害者とその家族の生計向上	事業地域	カンボジア/バタンバン州
受益者カテゴリー	貧困層地雷被害者を含む障害者	事業実施期間	2021年4月～2022年3月
受益者数(累計)	カムリエン郡105世帯(JICA草の根パートナー事業100世帯)		



コロナ禍でも支援を継続、家畜販売の収入が2017年から累計約991万円に

バタンバン州カムリエン郡に住む障害者105世帯を対象にした生計向上支援のフォローアップを引き続き実施しています。コロナ禍で、移動制限やタイ国境が閉鎖されたことで出稼ぎができなくなるなど、大きく経済活動が制限される中で、家畜銀行から貸し出した牛、ヤギ、鶏、ハリナシミツバチの飼育と返却される家畜の貸し出しを継続しました。2021年度中の収入は合計約317万円、また2017年からの累計収入は約991万円となりました。コロナ禍の中で、不安定な経済状況に陥る世帯がある中で、フォローアップによって、再度ヤギを貸し出すなどの活動によって障害者世帯の生計に貢献することができました。

- ① ヤギ、牛、ハリナシミツバチ、鶏など複数の家畜を飼育する地雷被害者のスン・シエンさん(仮名)。
② 貸し出された牛を飼育する地雷被害者のチャップ・ボンさん(仮名)。
③ 農業専門家とヤギ飼育の状況について話す地雷被害者世帯。

ワークショップを開催、刺し子が人の繋がりきっかけに



コロナ禍で人の集まるイベントを開催することが難しい日々が続いていましたが、11月には町内の方を対象とした刺し子のワークショップを開催しました。大槌刺し子では、新年に干支のタペストリーを制作することが恒例となっています。そこで、今回のワークショップでは、2022年の干支「寅」の文字をあしらった刺し子のタペストリーを参加者の皆さんと制作しました。

ワークショップには、刺し子さんも先生として参加したほか、大槌町内で活動する地域おこし協力隊員の方や「大槌ソーシャルジビエプロジェクト」の皆さんにも参加いただき、賑やかな会となりました。このように大槌刺し子や刺し子が人の繋がりきっかけとなっていることにとっても嬉しく思います。

ウェブサイトリニューアルのための写真撮影会にて。コロナ禍の中、少人数で集まって撮影していただきました。

大槌刺し子事業

2021 → 2022 OTSUCHI SASHIKO PROJECT JAPAN

2021年度はテラ・ルネッサンスにとっては創設20年、大槌刺し子にとっても10周年の節目の年となりました。また、私自身もインターンシップ生として、テラ・ルネッサンスに関わるようになってから、15年。本当に感慨深い1年となりました。特に大槌刺し子においては、10周年を迎え、新しく方針を示すとともに、ウェブサイト、ロゴのリニューアルを行いました。これからも新生大槌刺し子として、「刺し子」や「大槌刺し子」を通して、持続可能な社会や人と人との繋がりを社会に示すべく、刺し子さんやスタッフとともに歩んでいきたいと思っています。



理事・大槌刺し子事業部長
政策提言室長

吉田 真衣

課題と展望

新生「大槌刺し子」、持続可能な社会の実現に向かって

2021年度は大槌刺し子として、事業内容方針を大きく転換しました。これまで大槌刺し子のオリジナル商品を中心に販売してきましたが、これからは企業や他の団体との協働に注力することすることで、多くの方々に大槌刺し子や「刺し子」を届け、生産と消費のあり方の再考と、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

今、大槌では刺し子さんが町内でつくった「趣味の会」など、大槌刺し子を契機とした刺し子さんたち自身による活動が広がっています。これからも「刺し子」がもつ本来の価値を通じて、復興、そして持続可能な社会実現に寄与できるよう、そして、社会に求められるような存在となるよう新生「大槌刺し子」として邁進していきたいと思っています。

1 大槌刺し子			
事業の目的	東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県大槌町にて、地元の方々とともに東北の伝統技術である「刺し子」商品の制作・販売を通じて、以下のことに寄与する。 (1) 持続可能な社会の実現に貢献する (2) 日本の伝統文化および手仕事の価値を伝える (3) 小規模な工芸事業（ビジネス）を通じて、地方と工芸を元気にするモデルを確立する		
事業地域	日本 / 岩手県	受益者数(累計)	209名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～2022年3月



大槌産ジビエレザー（鹿革）と刺し子のコラボレーション商品を開発

「害獣」を「まちの財産に」をビジョンに掲げ、大槌町の鳥獣被害の問題に取り組むMOMIJI株式会社様と一緒に、大槌産の鹿革を使った商品の開発を行いました。「町の財産を増やしたい!」というかけ声のもと、1年以上かけて試作を繰り返し、ポーチとショルダーバッグが完成しました。MOMIJI株式会社社長兼ハンターの兼澤幸男さんによって捕獲されたジビエレザー（鹿革）を使用し、大槌刺し子の刺し子さんたちが刺し子を施したコラボ商品です。大槌町内でもよく見かけるようになった鹿。害獣として殺処分してしまうことは心苦しいですが、奪った命を大切に使いたいと思い商品開発しました。優しい肌触りのジビエレザーにもぜひ触れていただけると嬉しいです。※商品は、大槌町のふるさと納税で申し込みが可能です。

1 大槌産ジビエレザーを使用し商品開発したポーチ。



10周年を迎えた「大槌刺し子」、ロゴマークなどを刷新

10周年を迎えた2021年、事業名称を「大槌刺し子」へと変更しました。また、それに伴いロゴマークとウェブサイトの刷新を行いました。ロゴマークは、布地を糸に通すことで生まれた「刺し子」と人の「つながり」を表しています。また、ロゴタイプ（文字部分）は、いつまでも変化しない本質を大切に、新しく変化を重ねていく伝統をかたちにする大槌刺し子の作り手である刺し子さんの姿勢を表現しています。

2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに発足した大槌刺し子も、多くの皆さまのご支援のおかげで、2021年6月には発足から10周年を迎えました。10年間の歩みの中で得た経験や学びを活かし、刺し子という伝統技術を通じて、1.手仕事の価値を伝える、2.持続可能な社会をつくる、3.工芸と日本を元気にする、という新しいコンセプトも掲げました。引き続き、あたたかいご支援とご愛顧のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

活動の詳細はこちら ▶▶▶ <https://sashiko.jp/>

ご支援いただく皆さまと一緒に歩んだ20年の歴史を一冊に

2001年から2021年までの歴史を総覧する「20周年記念誌」を制作。なかでも、これまでの活動量を示す膨大な写真群は必見です。さらに、NGO業界を牽引する3団体での特別対談や、支援者座談会、テラ・ルネッサンスライブラリーと題した資料ページなど魅力満載。「ご努力と素晴らしいご実績に心から感謝の気持ちで一杯です」「テラルネの歩みを分かりやすく振り返れて、本年も微力ながら一助となれるよう支援を継続したいと気持ちを新たにできました」などの感想をいただきました。

オンラインで公開中、
パソコン・スマホから
是非ご覧ください！



アジア・アフリカ、日本におけるこれまでの活動実績とともに20周年ならではの企画も実施。
全76ページにわたりテラ・ルネッサンスの「これまで」と「これから」をお楽しみいただける内容です。

啓発事業

2021 → 2022 AWARENESS RAISING PROJECT JAPAN

海外事業地での国際協力、政策提言とともにテラ・ルネッサンスの活動の柱になっているのが、国内で取り組む「啓発活動」です。

2021年度、啓発事業部はその活動の中心に「20周年記念事業」を据え、ここを基軸とした啓発活動を展開しました。特別な感謝状の贈呈や、周年イベントの開催など、様々なコミュニケーションを通じてご支援いただく皆さまとのさらなる関係構築に努めました。さらに、チャリティーオークションの開催や、海外ファンドレイジングへの注力などの取り組みから、ファンドレイジングを通じた啓発活動の推進により、市民の皆さまに対して新たな活動参画の機会を創出していくことができました。



事務局次長
ブランディングデザイン室長
小田 起世和

課題と展望

社会情勢の変化に応じ、力強い啓発活動を推進

新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻など、社会情勢の変化が啓発活動の推進に大きな影響を与えている実感があります。そのような状況の中で、20周年事業を通じ、これまでにご支援いただく皆さまへ感謝をお伝えする際にわかったことがありました。それは、テラ・ルネッサンスの場合、その他のNPOと比べて、毎年ご寄付をいただいたり会員を続けていただくなど、ご支援を継続いただく方が多いということでした。一人でも多くの方と少しでも長く一緒に活動することは、社会情勢の変化に対応しながら力強く活動していくために重要なポイントだと感じています。このように、すでにご支援いただく皆さまとの関係構築に努めつつ、一方で新たにご支援をいただく方との機会を創出していく取り組みが必要です。ミッションの実現を目指し、組織全体が成長し事業が拡大する中で、既存の枠組みにとらわれず、好奇心をもって様々な啓発活動を推進していきたいと考えています。

1 JICA NGO等提案型プログラム「京都発！SDGs国際協力アクター連携強化プログラム」

事業の目的	京都を中心とした地域で、SDGs達成に向け取り組みを行うアクターのSDGsに関する理解向上。SDGs国際協力アクター同士の情報交換、人材交流、協働事業を行うことで各アクターの組織強化を通して、SDGs達成に寄与する		
事業地域	日本国内	実績	16事案
指標	事業を介して実施される協働事業	事業実施期間	2019年12月～2021年11月

様々なアクターと連携し、SDGsの取り組みを推進

京都府内でSDGsに関心を持つ教育機関、企業、自治体、市民団体、そして個人が情報共有、意見交換、協働を進める「京都発！SDGs国際協力アクター連携強化プログラム」通称京都SDGsラボは、JICAより委託を受け2019年12月より始動。合計12回、延べ268名（約50団体）が参加するプログラムを実施しました。結果として、16事案のパートナーシップを促進することができ、2021年11月26日時点で、58名・団体のネットワークを構成することができました。2021年12月以降は、運営主体を関西NGO協議会に移管し、関西NGO協議会の事業として京都SDGsラボの活動は継続しています。



2 令和3年度外務省 NGO 相談員

事業の目的	国際協力に関するNGO関係者および一般市民からの照会や相談に対応する業務を受け、一般市民の国際協力に関する理解促進、地方および／または中小NGO組織の運営能力の底上げ・強化を図る		
事業地域	日本国内	事業実施期間	2021年4月～2022年3月
指標	(1) 一般市民や他セクターに対する相談対応件数 (2) 地方および／または中小NGOに対する相談対応件数 (3) 出張サービス (4) SNSリーチ数(年間)		
実績	(1) 年間2,155件 (2) 年間349件 (3) 年間9件 (4) 25,620件		

2021年度は、外務省NGO環境整備支援事業における「NGO相談員」を受託し、国際協力分野で経験と実績をもとに、一般やNGO等からの質問や相談に対応しました。NGO運営や国際協力キャリア、日本の国際協力についてなど国際協力に関する合計2,504件の相談対応と、9件の出張サービスの実施をしました。



寄付・法人連携 活動トピック /

法人サポーター全国交流会を開催、持続可能な経営を 実践する経営者が共に学び交流を深める

2021年7月30日、テラ・ルネッサンスで初となる「法人サポーター全国交流会」を開催しました。法人サポーターとは、毎月5,000円からの法人向けマンスリースポート制度で、全国200社もの企業・個人事業主の皆さまにご支援いただいています。

イベント当日は、各地の法人サポーターなど、持続可能な経営を目指す経営者の皆さまが集いました。共に学び、交流を深める中で、次回の開催が待ち遠しいような、熱気と希望に溢れる時間となりました。

法人サポーターの皆さまは、持続可能な経営を実践し、日々その事業に関わる人や地域の幸せを目指す方々ばかりです。そうした皆さまが、交流会を通じて刺激あい、それぞれの地域で活躍いただくこと。それこそが、テラ・ルネッサンスの目指す「すべての生命が安心して生活できる社会（世界平和）の実現」に繋がると考えています。

① コロナ禍で対面開催を迷いながら、感染対策を講じつつ15名の方にご参加いただいた。

② 法人サポーターから構成される後援会組織の代表者によるパネルディスカッションの様子。

法人サポーターの声 /

交流会、リアルで全国の志を同じくする経営者と集う、最高の時間。テラ・ルネッサンスを支援する経営者は志が高く、お会いするたび、エネルギーをいただき、「もっとやるぞ!」と経営意欲を掻きたてられます。



株式会社FISソリューションズ
代表取締役
山口 勝宏さん

講演・イベント実績

※ 順不同

企業・団体	株式会社アイ企画 / 名備運輸株式会社 / 株式会社西井製作所 / 会津建物管理株式会社 / 中特グループ 株式会社モトックス / 株式会社シーエフエス / READYFOR株式会社 / 株式会社ブロックス / utenaworks 株式会社 FRich Quest / 九州ホスピタリティ研究会 / まちとしごと総合研究所 / JYPS 特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構 / 特定非営利活動法人地球市民の会 特定非営利活動法人コンシューマーズ京都 / 特定非営利活動法人エイズ孤児支援NGO・PLAS 特定非営利活動法人レキオウイングス / 特定非営利活動法人ISL / 特定非営利活動法人環境市民 一般社団法人EO North Japan / 特定非営利活動法人名古屋NGOセンター / 特定非営利活動法人homedoor エンジェルバンド倶楽部 / 関西あおぞらプロジェクト / 筑波大学公認学生団体 WorldFut TSUKUBA 鳥羽市ボランティア連絡協議会 / 京都市環境保全活動推進協会 / 佐賀県ユニセフ協会 / 公益資本主義推進協議会 大阪いずみ市民生活協同組合 / 京都生活協同組合 / 生活協同組合コープこうべ / 近畿労働金庫 独立行政法人国際協力機構 / JICA 沖縄 / 野洲市商工会 / WCRP 日本委員会青年部会 グローバル人財養成セミナー実行委員会 / WIPS / 京都橘ライオンズクラブ / 京都紫明ライオンズクラブ 広島中央ローターアクトクラブ
教育機関	京都市立元町小学校 / 京都市立松ヶ崎小学校 / 京都市立山之内小学校 / 京都市立第三錦林小学校 佐賀市立春日小学校 / 鹿島市立七浦小学校 / 交野市立交野小学校 / 交野市立長宝寺小学校 / 塩尻市立吉田小学校 佐賀市立城北中学校 / 伊万里市立山代中学校 / 伊万里市立青嶺中学校 / 椎葉村立椎葉中学校 有田町立西有田中学校 / 佐賀市立城東中学校 / 嬉野市立吉田中学校 / 嬉野市立塩田中学校 / 東明館中学校 唐津市立蔵木中学校 / 佐賀県立致遠館中学校 / 枚方市立樟葉西中学校 / 枚方市立清西中学校 枚方市立招提北中学校 / 枚方市立さだ中学校 / 交野市立第一中学校 / 芦屋市立精道中学校 泉大津市誠風中学校 / 三重大学教育学部附属中学校 / 京都市立洛西中学校 / 京都市立朱雀中学校 京都市立向島東中学校 / 京田辺市立大住中学校 / 一宮市立今伊勢中学校 / 佐賀県立武雄青陵中学校 京都府立西舞鶴高等学校 / 京都府立洛西高等学校 / 京都府立福知山高等学校 / 大阪府立住吉高等学校 大阪ビジネスフロンティア高等学校 / 松風塾高校 / 大阪府立堺東高等学校 / 大阪府立佐野高等学校 平安女学院高等学校 / 大阪国際大和田中学校高等学校 / 岩倉高等学校 / 神奈川県立横浜国際高等学校 京都市立紫野高等学校 甲南女子大学 / 横浜市立大学 / 立命館大学 / 神戸女学院大学 / 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター 龍谷大学短期大学部 / 神田外語学院 / 宮崎大学 / 神戸大学 / 創価大学 / 上智大学 / 三重大学教養教育院 崇城大学 / 明治大学 / 日本大学
行政	熊本県庁 / 福知山市人権啓発推進室 / 人事院公務員研修所 / 京都府男女共同参画課 梶原町一貫教育支援センター / 京都市教育委員会
イベント	2021.10.23 池田市立北豊島中学校 SDGsフェス 2021.11.03 第9回清水寺で世界を語る

メディア掲載実績（重複を除く）

毎日新聞 / 佐賀新聞 / BS朝日 / Hanako / news every / NHK / 西日本新聞 / LEE / 中日新聞 / 本願寺新報 / 京都新聞 / J-wave
株式会社ブレイン 首相官邸 SNS / 株式会社KADOKAWA / 聖教新聞 / 東北日報 / 秋田さきがけ / 岩手日報 / 千葉日報 / 東京新聞 ほか



海外ファンドレイジング 活動トピック /

ウェブを活用し、多言語での情報発信に注力

「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」の助成を受け、海外からのファンドレイジングを通じた多言語化による組織基盤強化を目的とし、日本国外の市民社会を対象とした啓発・ファンドレイジングを実施しました。アメリカ、台湾を対象とし、中国語・英語WEBサイトの改善や、Facebook、YoutubeなどのSNSにおける情報発信の強化、台湾大学でのオンライン講演開催など、主にウェブを活用し多くの方への周知を続けてきました。世界平和の実現のためには、世界中の人々の力を結集する必要があります。本事業が、微力ながらもその一歩となるよう邁進します。



また、台湾での活動を推進するために、当会の認知向上を目的とした公式キャラクターを公募するデザインコンペティションを開催しました。結果、323件もの作品が寄せられました。最優秀賞作品には、台湾の地形をモチーフに台湾の多文化主義とさまざまな民族の包摂性を象徴し、すべての生命の再生と平和をイメージした「阿春（春ちゃん）」が選ばれました。台湾で平和を伝える活動を「阿春」とともに展開することで、台湾の人々の平和への想いをさらに喚起できることを願っています。

これまでに培ってきた啓発・平和教育がさらなる進化、 佐賀の教育現場から「グローバル人財育成」を実践



東明館高等学校（基山町）で「グローバル人財育成事業」を開始

2021年7月に佐賀県基山町に所在する東明館高等学校と包括連携協定を締結し、同年9月から同校探究コースにおいて「グローバル人財育成事業」を開始しました。この事業は、テラ・ルネッサンスがこれまで培ってきた国内外での支援・啓発活動の知見を活かし、中学生や高校生が社会課題とその背景にある社会構造に関心を持ち、世界または地域の平和構築に資するグローバル人財の育成を目指すものです。初年度は、ウガンダとカンボジアの課題を事例とした問題解決型学習(PBL: Project Based Learning)を実施しました。また、この事業は「企業版ふるさと納税」によるご寄附によって支えられました。

1 東明館高校と包括連携協定を締結した式典の様子。写真中央はテラ・ルネッサンス理事の鬼丸、右は東明館高校の理事長の荒井氏。

講演・イベント開催の拡大と充実

2021年度は未だコロナ禍が続く中でも、佐賀県内の教育機関や市民組織を中心に合計16回、参加者総数1,578人の講演活動を行いました。佐賀県内を津々浦々訪問し、ウガンダの子ども兵問題や、コンゴの紛争鉱物の問題などについて講演し、平和、人権、命の大切さを伝え、思いやりの心を持った次世代育成に寄与することができました。

講演を通し、個人、家庭、学校、会社や団体における社会貢献活動を開始することを促したり、社会貢献に対する意識を向上させたりすることができました。



佐賀県内の中学校で子ども兵など紛争の課題について語る佐賀事務所スタッフの佐々木。



＼ ふるさと納税（寄附）の活用・活動トピック /

新型コロナ対策支援や、佐賀県での平和教育を実施

2021年度にふるさと納税でいただいたご寄附は、佐賀県における学校講演やイベントによる啓発活動のほか、アフリカ中東部地域（ウガンダ・コンゴ）における最脆弱層の新型コロナ対策や、紛争被害にあった女性の生計向上支援に活用させていただきました。2021年度も、新型コロナ対策支援を滞りなく実施できたことによって、多くの人の「いのち」と「暮らし」を守ることに繋がりました。また、当該事業の活動報告を通して、佐賀の学生・市民の皆さまへ平和、人権、命の大切さを伝え、思いやりの心を持った次世代の担い手の育成に寄与することができました。

1 ウガンダの新型コロナ対策支援として、生産したマスクを地元の診療所に供与する様子。

2 コンゴの生計向上支援として、洋服ビジネスについてフォローアップする様子。

＼ ふるさと納税（寄附）・利用者の声 /

ふるさと納税で、佐賀牛の返礼品を選びました。種類もたくさんあり、お世話になった方への新春のご挨拶として利用しています。お届けした方々からは「美味しい！豪華だけど、どうしたの？」と驚かれ、とっても喜ばれています。会員としても支援しており、毎月の支援を増やしていきたいと考えておりますが、なかなか実行できないぶん、ふるさと納税で支援できたらと思っています。また、返礼品をお届けした方々にもテラ・ルネッサンスの活動を宣伝できるので、とても満足しています。これから多くさんの人々のために益々の御発展をお祈り申し上げます。

＼ Good /



（支援者）

佐藤 倫子さん

（選ばれた返礼品）

佐賀牛

サーロインステーキ

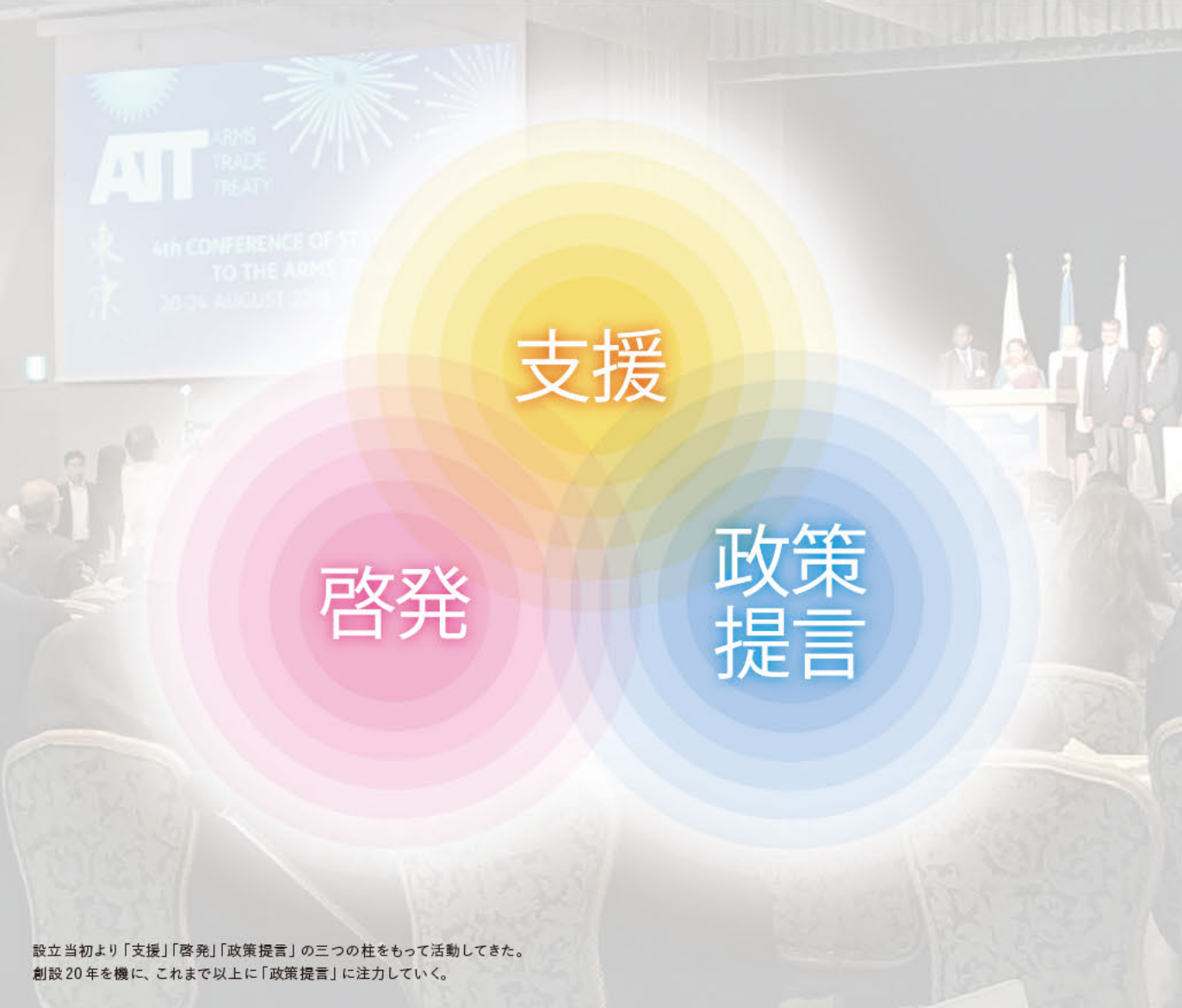
140g×2枚



ふるさと納税（寄附）のお申込み・お問い合わせ

・ウェブ | https://www.terra-r.jp/furusato_tax.html

・電話 | 075-741-8786（受付時間：月-金、10:30 - 18:00）



設立当初より「支援」「啓発」「政策提言」の三つの柱をもって活動してきた。
創設20年を機に、これまで以上に「政策提言」に注力していく。

政策提言推進事業

2021 → 2022 ADVOCACY PROJECT JAPAN

テラ・ルネッサンスでは20周年を迎えて、私たちが取り組む地雷、子ども兵、小型武器といった社会課題の解決、そして「世界平和」の実現を加速するため、政策提言推進室を開設しました。それは、私たちが目指す社会の実現には、現場での支援活動に止まらず、どの国にとっても公平で、なおかつ世界課題の解決に寄与する国際的枠組みを作ることが一層必要とされていると考えたからです。開設1年目の2021年度は、2020年から続く調査研究活動に加え、「児童労働撤廃国際年」における活動、またテラ・ルネッサンスが取り組む子ども兵問題について体系的に伝える『子ども兵白書』の執筆を始めました。現場での経験に加え、体系的な知識も求められる本分野において、これまでの経験や知見を結集し、新しい挑戦を推進していきたいと思えます。



理事・大槌刺し子事業部長
政策提言室長

吉田 真衣



＼ 政策提言 活動トピック ／

「児童労働国際撤廃年」にあわせ、啓発に注力

2021年は国連が定めた「児童労働国際撤廃年」でした。テラ・ルネッサンスは「児童労働ネットワーク」(CL-Net)の一員として、児童労働問題の啓発に取り組みました。6月には、テラ・スタイル東京に、認定NPO法人ACE代表岩附由香氏を招き、児童労働に関するセミナーを実施するとともに、SDGs8.7「2025年までの児童労働撤廃」を達成するために国際労働機関が取り組む「2021アクションの誓い」にも参加しました。写真は、佐藤啓経済産業大臣政務官に「ストップ!児童労働50万人署名」を提出した際の様子。

調査研究活動として、学会発表や大学での講義を実施

2020年度に続き、政策提言推進室では調査研究活動に注力しました。理事/アジア事業マネージャーの江角泰が東南アジア学会第103回研究大会にて「アグロエコロジ的農業への転換の有効性と課題：カンボジア・バタンバン州を事例として」と題した発表を行いました。また、理事/政策提言推進室長の吉田真衣が明治大学にて「軍縮・軍備管理分野の支援の課題」と題して講義を担当したほか、「武器と市民社会」主催セミナー「武器貿易条約(ATT)における無人兵器の規制状況」に討論者として登壇するなど、専門性が求められる領域における活動の幅を広げました。

ご支援いただいた企業・団体の皆さま



(ロゴ表記: 左上から) 株式会社アイ企画 / 株式会社アイケイ / ATHENA BEST FINANCIAL GROUP / 公益財団法人ウェスレー財団 / 音羽山 清水寺 / 外務省 / 公益財団法人風に立つライオン基金 / 加藤貿易株式会社 / 株式会社キャディッシュ / 京都橋ライオンズクラブ / Global Support Limited / 株式会社ゲットイット / 独立行政法人国際協力機構 / UNDP 国連開発計画 コンゴ事務所 / 小林税理士事務所 / 佐賀県 (ふるさと納税) / 宗教法人松緑神道大和山 / 宗教法人真如苑 / 株式会社玉越 / Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs / タモブランドプロジェクト / 株式会社アイ企画 / ドラゴンキューブ株式会社 / 一般財団法人日本寄付財団 / 公益財団法人日本国際協力財団 / 特定非営利活動法人ネットワーク地球村 / 株式会社ビーブルフォーカス・コンサルティング / フェリシモ基金事務局 / リタワークス株式会社 / 立正佼成会一食平和基金 / 株式会社YKワールドビジョン / みてね基金

会津建物管理株式会社 / 愛東運輸株式会社 / 秋田海陸運送株式会社 / 有限会社アップライジング / ATOM Works株式会社 / ANTASKALANA JAPAN / 有限会社イン・コーポレーション / 一般社団法人一華五葉 / 伊那食品工業株式会社 / 株式会社ウチャマホールディングス / 宇東梱包運輸株式会社 / 有限会社梅野商店 / 一般財団法人H2O サンタ / エグチホールディングス株式会社 / 税理士江黒清史事務所 / 株式会社エスグランド / 株式会社 FISソリューションズ / MDRT / 株式会社オーゼン / 大塚実業株式会社 / OPS株式会社 / 株式会社 All Of Creation / 株式会社岡山建設 / 株式会社小原工業 / オプティマ・ソリューションズ株式会社 / 株式会社オンス・コンフィアンス株式会社 / オンスホールディングス / 社会福祉法人含掌苑 鶴の苑 / かつみカイロ整体院 / かみひとねとわーく京都 / 京都生活協同組合 / 公益財団法人京都地域創造基金 / 株式会社 GLOBAL FLAT / 株式会社 Kurokawa / 株式会社 ケンモク / 興亜商事株式会社 / 株式会社 Co-Lab / NPO 法人コミュニティ時津 / 特定非営利活動法人コンフロントワールド / 三和パッキング工業株式会社 / 株式会社ジェイ教育システムズ / 特定非営利活動法人仕事人倶楽部 / 地雷ゼロ宮崎 / 株式会社新経営サービス / 株式会社シンワルブテック / 菅原汽船株式会社 / 大阪府立住吉高等学校 / 特定非営利活動法人青少年ワールドサポート21 / セフィロス株式会社 / 大真エンジニアリング株式会社 / 大和ハウス工業株式会社 / 小さな一歩の会 / 株式会社 鮫子大洋自動車教習所 / 株式会社塚屋運送 OUMI / 株式会社塚屋運送 / テレコムクレジット株式会社 / 株式会社東京カモガシラランド / 徳田印刷株式会社 / 有限会社徳久 セブンイレブン佐野工業団地店 / 有限会社トリオ商事 / 株式会社南海 / 株式会社西井製作所 / 日本絨靴株式会社 / 株式会社 / ア動物病院 / 橋本ポンプ株式会社 / 株式会社 HASUNA / 株式会社 バリューブックス / 株式会社 VIAJERO / ひなぎく株式会社 / brilliant heart / 株式会社 みしまや / 株式会社 三井酢店 / 水戸ヤクルト販売株式会社 / 株式会社 ミューチュアルトラスト / 株式会社 モリヤコンサルティング / 山梨県交通安全保障協会 / 国際ロータリー第2790地区八日市場ロータリークラブ / 株式会社 ライフイズ / 株式会社 リアル M / 株式会社 RITA / 株式会社 リフォー夢プラザ / 株式会社 リブリ / 弁護士法人ロウタス法律事務所

ご支援いただく皆様の声

社会課題を一緒に解決するために、仲間へ託す「未来費」。

私たちゲットイットは2019年度から「サステナブルコンピューティング」をミッションとして掲げ、世界のハードウェアに関する社会課題を自分たちの課題と考えています。私たちが作りたい未来に対して、取り組むべき活動を一緒に解決してくれる仲間へ委託する。私たちは期初に「未来費」として予算を組み、コンゴの紛争鉱物問題をテラ・ルネッサンス様に委託させて頂いています。命がきらきらと輝く温かみのある世界へ。私たちは私たちの分野で得意な事で能力を発揮し、連携しながら課題解決に取り組んでいきます。



株式会社ゲットイット
代表取締役

廣田 優輝さん

法人寄付

個人として企業として、善循環を生み出す何かでありたい。

「何を選択するのか」企業経営をしていて、日々生活をする中で、何を基準として選択するのか。そんな事を考えながら、経営・生活をしています。個人としても企業としても善循環を生み出す何かでありたい。テラ・ルネッサンスのような活動はできなくても、支援はできる。持続可能な社会・経営を志して集まったテラ・ルネッサンスサポーターズクラブ東海*。学びを深め、その学びを経営に活かしていく。私たちができることは限られていますが『ちよつとを、ずっと』これからも活動を支援していきます。

※ 法人サポーターとしてテラ・ルネッサンスを支援する東海地域の経営者により結成した組織。



株式会社はちどり
代表取締役

石原 慧子さん

法人サポーター

沖縄で生まれ育った私にとって、無関心でいられなくなった。

私が寄付を始めたのは10年以上前になります。家族の誘いで鬼丸さんの講演会に行ったのがきっかけです。地雷、小型武器、子ども兵。苦しむ人達の気持ちに寄り添い行動する鬼丸さんの講演は衝撃的なものでした。「戦争と貧困」沖縄で生まれ育った私にとって無関心でいることができませんでした。これからも直接の支援はできませんが、私にでもすぐに行える寄付という支援を継続していき、世界中の誰もが安心して笑顔で暮らせる日々がくることを願って微力ながら行動していきたいです。



伊差川 明香さん

ファンクラブ会員

2021年度決算ならびに2022年度予算

※2022年度より、政策提言推進室は政策提言室と名称を変更し、グローバル人財育成事業室を新設する組織変更を行いました。

(単位:円)

Ⅰ 経常収益の部			2021年度 予算	2021年度 決算	2022年度 予算
1. 会費収入			76,000,000	73,924,000	86,539,000
2. 寄付収入			92,132,000	87,702,524	164,100,000
3. 事業収入			34,242,809	28,866,237	63,119,000
4. 助成金等収入			150,995,947	122,809,299	78,374,254
5. その他収入			0	7,351,009	0
経常収益合計			353,370,756	320,653,069	392,132,254
Ⅱ 経常費用の部					
1. 事業部門	海外事業	カンボジア事業	21,641,711	24,698,164	64,755,502
		ラオス事業	19,133,345	24,297,054	19,783,576
		ウガンダ事業	46,178,977	50,964,915	49,332,715
		コンゴ事業	115,676,027	99,171,634	56,491,466
		ブルンジ事業	23,349,103	25,263,362	28,707,633
		タイ事業	-	-	1,037,196
		ウクライナ事業	-	966,333	31,415,461
	国内事業	大槌刺し子事業	19,296,518	14,210,972	13,058,485
		啓発事業	88,884,029	70,530,016	65,319,291
		政策提言室	9,024,304	4,937,521	15,711,223
		グローバル人財育成事業室	-	-	18,188,404
		ブランディングデザイン室	3,767,080	4,904,511	11,568,908
		その他の事業	0	110,452	0
2. 管理部門		21,152,710	12,498,436	28,190,365	
経常費用合計		368,103,804	332,553,370	403,560,226	
当期経常増減額		▲ 14,733,048	▲ 11,900,301	▲ 11,427,972	

国際協力事業費明細

(単位:円)

カンボジア	地雷撤去支援プロジェクト		1,031,416
	地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト		17,566,173
	地雷埋設地域の脆弱な障害者家族への生計向上支援フォローアップ		4,144,240
	地雷埋設地域スラエ・スダウ小学校プロジェクト		1,956,335
	合 計		24,698,164
ラオス	社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト		24,297,054
	合 計		24,297,054
ウガンダ	ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト		16,800,025
	南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト		19,788,635
	南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援フォローアッププロジェクト		5,564,609
	ウガンダ北部における農業・畜産支援による貧困削減事業に係る後方支援事業		234,591
	ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰フォローアッププロジェクト		2,821,588
	新型コロナウイルス対策支援事業		5,755,467
	合 計		50,964,915
コンゴ	南キブ州における最脆弱層世帯の養蜂ビジネス起業支援プロジェクト		3,762,293
	南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト		5,322,272
	南キブ州における紛争被害女性の生計向上支援フォローアッププロジェクト		1,683,162
	中央カサイ州における紛争の影響を受けた最脆弱層女性に対するレジリエンス向上プロジェクト		8,240,118
	コンゴ民における紛争と洪水被害のリスクに晒された脆弱層のレジリエンス向上プロジェクト		75,695,593
	新型コロナウイルス対策支援事業		4,468,196
	合 計		99,171,634
ブルンジ	ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者(EVIs)世帯の自立と自治支援プロジェクト		7,906,087
	ブルンジの社会的弱者世帯の子どもの保護と自立支援プロジェクト		17,357,275
	合 計		25,263,362
ウクライナ	ウクライナ難民/避難民支援プロジェクト		966,333
	合 計		966,333

助成金内訳

(単位:円)

助成機関 ※順不同	受取助成金	前受金	対象事業
1. 公益財団法人 風に立つライオン基金	2,000,000	0	カンボジア事業
2. 公益財団法人ウェスレー財団 開発・育成活動助成金	3,000,000	0	カンボジア事業
3. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	21,274,355	5,634,679	ラオス事業
4. 京都生活協同組合 社会貢献活動助成金制度	300,000	0	ラオス事業
5. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	11,372,870	0	ウガンダ事業
6. 公益財団法人 日本国際協力財団	138,744	0	ウガンダ事業
7. 公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団 世界子ども救援金	300,000	0	ウガンダ事業
8. 株式会社フェリシモ たすけあい基金	500,000	0	ウガンダ事業
9. 公益財団法人 京都地域創造基金	336,180	0	ウガンダ事業
10.一般財団法人 日本寄付財団	0	5,000,000	ウガンダ事業
11.宗教法人 真如苑	2,000,000	2,000,000	コンゴ/ウガンダ事業
12.国連開発計画	73,427,686	16,069,236	コンゴ事業
13.公益財団法人 日本国際協力財団	5,000,000	0	ブルンジ事業
14.パナソニック株式会社 Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs	1,815,000	0	啓発事業
〔上記に伴う各案件名〕(1)地雷埋設地域のコロナ禍で洪水被害を受けた脆弱世帯への自立支援事業(2)環境再生型農業によるコミュニティ・レジリエンス向上支援(3)社会的弱者家庭への不発弾回避教育と生活基盤整備支援プロジェクト(4)ラオス不発弾汚染地域の住民のレジリエンス強化のための裁縫技能訓練(5)南スーダン難民居住区及びホストコミュニティにおける自立支援プロジェクト(6)ウガンダ北部における農業・畜産支援による貧困削減事業に係る後方支援事業(7)コロナ禍における紛争被害女性の生計支援を通じた子どもの命と暮らしを守る支援事業(8)コロナ禍を生きるウガンダの人々の暮らしと教育を守るプロジェクト(9)ウガンダ北部地域における元子ども兵社会復帰支援事業(10)ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援事業 フェーズ1(11)南キブ州における子どもの徴兵予防プロジェクト/ウガンダ北部における最も脆弱な若年層レジリエンス向上プロジェクト(12)コンゴ民における紛争と洪水被害のリスクに晒された脆弱層のレジリエンス向上プロジェクト(13)ブルンジ農村部コミュニティにおける社会的弱者(EVIs)世帯の自立と自治支援プロジェクト(14)広報媒体の多言語化を活かしたファンドレイジング海外展開プロジェクト			

独立行政法人 国際協力機構からの業務委託事業

(単位:円)

事業名称	事業収益	前受金	対象事業
1. NGO等活動支援事業	3,191,664	0	啓発事業

貸借対照表 (2022年3月31日 現在)

(単位:円)

Ⅰ 資産 の 部	1. 流動資産		Ⅱ 負債 の 部	1. 流動負債	
	現金預金	133,496,156		未払金	7,063,053
	売掛金	689,137		前受金	28,995,142
	未収金	6,600,813		預り金	1,145,878
	商品	4,207,141		未払法人税等	223,000
	前払費用	249,228		未払消費税等	533,400
	立替金	338,154		流動負債合計	37,960,473
	仮払金	1,500,000		2. 固定負債	
	マイクログレジット	2,227,726		長期借入金	50,000,000
	流動資産合計	149,308,355		固定負債合計	50,000,000
	2. 固定資産		負債合計	87,960,473	
	有形固定資産	15,613,698	Ⅲ 正味 財産 の 部	1. 指定正味財産	
	投資その他の資産	1,050,418		前期繰越指定正味財産	56,691,034
	固定資産合計	16,664,116		当期指定正味財産増減額	▲ 8,415,451
資産合計	165,972,471	2. 一般正味財産			
		前期繰越一般正味財産		41,811,257	
		当期一般正味財産増減額	▲ 12,074,842		
		正味財産合計	78,011,998		
		負債及び正味財産合計	165,972,471		

監 査 報 告 書	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 理事長 小川真吾 殿 2022年5月27日 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 監事 伊藤圭太
	私は、2021年4月1日から2022年3月31日までの2021年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。
	1. 監査の方法概要 (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手法を用いて計算書類の正確性を検討した。 (2) 業務監査について、理事から業務の報告を徴収し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。
	2. 監査意見 (1) 活動計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示していると認める。 (2) 業務報告書の内容は真実であることを認める。(3) 理事の業務執行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。 以上
	原本は別途保管しております

様々な方法で、テラ・ルネッサンスの活動にご参加ください。

寄付で応援 当会へのご寄付は、寄付金控除などの税制上の優遇措置の対象です。

継続して寄付

個人の方	ファンクラブ会員（月々1,000円から） 利用方法：クレジットカード、口座振替
法人の方	法人サポーター（月々5,000円から） 利用方法：クレジットカード、口座振替



個人の方、団体・法人の方、それぞれ継続的にご支援いただける会員制度をご用意しています。特典としては、年次報告書や、ニュースレター、海外からのポストカードなどをお届けしています。お申し込みはホームページ、またはお電話でも受付中。また、すでに会員の方は、金額の変更も可能です。お気軽にお問い合わせください。

今回のみ寄付

● 一般寄付 利用方法：クレジットカード、郵便・銀行振込	● ふるさと納税（寄附） 利用方法：クレジットカード、郵便振込用紙※
---------------------------------	---------------------------------------

寄付金の控除額には一定の限度額があります。詳細は、最寄りの税務署にお問い合わせいただくほか、ふるさと納税の場合は、総務省の「ふるさと納税ポータルサイト」をご覧ください。総務省の通知（平成31年総務省告示第179号第2条第1号二）により、佐賀県民の皆様からのご寄附につきましては、返礼品をお選びいただけないことになっております。ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。また、法人としてふるさと納税のご寄附をされた場合に返礼品をお受け取りされると、受贈益として計上されますので、ご注意ください。（※ふるさと納税の郵便振込用紙をご希望の際は、テラ・ルネッサンス事務局までお問い合わせください。）

古着や古本、不要になったモノの回収で応援

モノドネ
対象：コート、シャツ、ズボンなど

キフ★ブック
対象：ISBNのある本、CD・DVDなど

着なくなったシャツやズボン、読まなくなった本やCD・DVDなどを回収して支援ができる『めぐるプロジェクト』。身近な国際協力として、幅広く好評いただいています。その他にも書き損じはがきなど、不用品の回収支援は、様々な種類をご用意しています。詳しくは、テラ・ルネッサンスのホームページをご覧ください。

ご支援のお申込み・お問い合わせは、テラ・ルネッサンス事務局まで

電話 075-741-8786（月・金 10:30 - 18:00）

FAX 075-741-7965

メール contact@terra-r.jp

Web テラルネッサンス

検索

テラ・ルネッサンス 団体概要

（2022年3月末日）

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	理事長	小川真吾
設立年	2001年（2005年 法人格取得、2014年 認定NPO法人となる）		
活動対象国	カンボジア王国 / ラオス人民民主共和国 / ウガンダ共和国 / コンゴ民主共和国 / ブルンジ共和国 / ハンガリー共和国 / ウクライナ共和国 / 日本		
海外・国内事務所	本部署事務局（日本 京都府） 佐賀事務所（日本 佐賀県） 大槌事務所（日本 岩手県） カンボジア事務所（カンボジア王国バタンバン州） - フィールド事務所（バタンバン州カムリエン郡） ラオス事務所（ラオス人民民主共和国シエンクアン県） ウガンダ事務所（ウガンダ共和国グル県） - フィールド事務所（アジュマニ県バギリニア難民居住区） コンゴ事務所（コンゴ民主共和国南キブ州） - フィールド事務所（南キブ州カレヘ行政区カロンゲ区域、中央カサイ州カナンガ市） ブルンジ事務所（ブルンジ共和国ブジュンブラ市） - フィールド事務所（カヤンザ県カヤンザ郡） ハンガリー事務所（ハンガリー共和国、ブダペスト市）		
海外における主な協力団体	●カンボジア Mines Advisory Group(MAG) The Department of Agriculture, Forestry, and Fisheries in Battambang Province Community Rural Development and Natural Agriculture for Supporting Environment(CRDNAE) ●ラオス MAG-Lao / UXO-Lao / National Regulatory Authority for the UXO / Mine Action Sector in Lao PDR, The Ministry of Labour and Social Welfare/Pek District Agriculture and Forestry Office ●ウガンダ Office of Prime Ministry / Gulu district / Ajumani District World Vision Uganda / Refugee Law Project / The Center for Victims of Torture / Gulu NGO Forum ●ブルンジ Kiganda Commune Office / Muramvya Province / Kayanza Commune / Kayanza Province Ministry of National Solidarity, Social Affairs, Human Rights and Gender ●コンゴ South Kivu Province / Central Kasai Province / UNDP / UNOCHA		

役員	理事 小川真吾 / 鬼丸昌也 / 中井隆栄 / 岡田則子 / 新居真衣 / 渡邊真規 / 江角泰 監事 伊藤圭太		
スタッフ	●本部署事務局(京都) 有給専従職員 9名 有給非専従職員 3名 インターン 6名 ●大槌事務所(岩手) 有給専従職員 2名 有給非専従職員 1名 ●佐賀事務所(佐賀) 有給専従職員 1名 ●ウガンダ・グル事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 16名 ●ウガンダ・アジュマニ事務所 ローカルスタッフ 10名 ●カンボジア事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 6名 ●ラオス事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 8名 ●コンゴ・プカブ事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 15名 ●コンゴ・カナンガ事務所 ローカルスタッフ 7名 ●ブルンジ事務所 日本人有給職員 2名 ローカルスタッフ 9名 合計 99名		
会員数	ファンクラブ会員 2,493名 / 正会員 56名 / 個人賛助会員 110名 / ジュニア賛助会員 5名 / 団体賛助会員 24社・団体法人サポーター 204社・団体 【定款上の会員合計 2,659名、233社・団体】		
加盟団体	(特活)関西NGO協議会 / (特活)国際協力NGOセンター / 日本小型武器行動ネットワーク (特活)地雷廃絶日本キャンペーン / 児童労働ネットワーク / SDGs市民社会ネットワーク 市民ネットワークforTICAD / 新公益連盟 / 国際小型武器行動ネットワーク(IANSA) / グルNGOフォーラム 関西SDGsプラットフォーム / 佐賀NGOネットワーク / 大槌商工会 / (一社)大槌町観光交流協会 NGO-JICA協議会NGO会議		



ひとり一人に未来をつくる力がある
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg.403号室

TEL : 075-741-8786 FAX : 075-741-7965 E-mail : contact@terra-r.jp

HP : www.terra-r.jp Facebook : [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo) Twitter : [@terra_ngo](https://twitter.com/terra_ngo)

表紙／カンボジアで
花の栽培に取り組む
村人の様子。収穫後
は市場で販売、生計
向上に繋がっている。